

2023年度NBRPゾウリムシ運営委員会（2回目） 議事録

日時：令和5年10月24日（火） 10時30分～11時30分

場所：Webex会議

出席者（敬称略）

運営委員

石田正樹（委員長、奈良教育大学理科教育講座 教授）、岩井草介（弘前大学教育学部 准教授）、岩本政明（日本大学文理学部 教授）、柴田あいか（アリゾナ州立大学バイオデザイン研究所 研究員）、道羅英夫（静岡大学理学部 教授）、西上幸範（北海道大学電子科学研究所 助教）、保科亮（株式会社ノベルジェン シニアフェロー）、度会雅久（課題管理者、山口大学共同獣医学部 教授）

オブザーバー

小幡裕一（NBRP プログラムオフィサー、国立研究開発法人理化学研究所バイオリソース研究センター・特別顧問）、黒田浩介（基盤技術整備分担課題管理者、金沢大学理工学研究域 准教授）、鈴木智広（NBRP 事務局長、国立遺伝学研究所）

陪席者

渡邊健太（課題管理参加者、山口大学共同獣学部 准教授）、橘理人（課題管理参加者、山口大学中高温微生物研究センター 助教）、折崎真哉（山口大学学術研究部）

議事に先立ち、司会を度会委員から石田委員長に依頼し、了承された。

議題

1. 課題管理者挨拶

度会委員から配布資料の確認、および資料3に基づき、運営委員会参加者の紹介があった。

2. 報告事項

(1)令和5年度事業報告

度会委員から資料5に基づき事業報告の説明があり、令和5年度の収集数、保存数は見込み通りで推移している旨、報告があった。なお、提供数と利用者数は、例年、年度後半に増加するため、目標値に達する見込みである。来年度以降、利用者数の目標値が増えていくため、各委員にも協力の要請があった。

また、NBRP 指定様式（別紙2）からは、寄託株数がわからないため、今後はその数を提示できるようにしておくこととなった。

(2)広報活動

度会委員から、広報活動について資料6に基づき説明があった。なお、第56回原

生生物学会は、日本寄生虫学会、日本衛生動物学会と合同開催であったため、これらも広報実績に加えることとなった。また、高校教員向けの福岡県高等学校生物部会研究会は、利用者の獲得につながった旨、報告があった。

(3)その他

特になし

3. 協議事項

(1)令和5年度NBRP基盤技術整備の進捗について

欠席の秋山佳丈 教授（分担課題管理者・国立大学法人信州大学）に代わり、度会委員（課題管理者）から、信州大学の分担内容について概説があった。なお、岩本委員から、ジェット自体による細胞の破壊や凍結・解凍を経て傷んだ細胞へのドリル液の使用等に関して質問があり、後日、秋山 分担課題管理者に確認することとなった。

続いて、橘 課題管理参加者、黒田 分担課題管理者から、本事業の進捗について報告を行った後、委員を含めた自由討論があった。新たな凍結保存剤の開発・合成に関して、グリセロールと双性イオンを同時に混合することや、混合により反応が起こらないこと等を確認した。

(2)令和6年度NBRPゲノム情報等整備への対応について

度会委員より、令和5年度NBRPゲノム情報等整備に道羅委員、中村保一 教授（国立遺伝学研究所）の協力の下申請したが、予備的なデータの不足等の理由により、不採択であった旨、報告があった。その後の自由討論にて、小核から大核ゲノムがどう形成されるかを調べるというよりも、利用者に対し有用なゲノム・遺伝子情報に焦点を当て、解析を行う方向性でよいのではないかという意見が多数あった。なお、それを審査員にどう伝えるかが、来年度の申請に向けての課題である。